

全校のみなさん、おはようございます。

今週から二学期が始まりました。今学期は長丁場です。勉強にクラブに大変な時期かと思いますが、一学期よりもできることが増えると、本当の「楽しさ」を味わえるかもしれません。

さて、八月も終わりを迎えますが、まだまだ暑さを感じますね。暑さを吹き飛ばすという意味でいうと、夏は「怪談話」というのも風物詩ですよ。ところで、皆さんは「幽霊」を見たことがあますか？科学的な技術や考え方が大いに広まっている現代ですから、幽霊なんて、何を馬鹿なことを言っているのだと切り捨ててしまいかもしれません。

石川県のあるお寺に、江戸時代末期に狩野派の絵師が幽霊を描いた一幅（いっぷく）の掛け軸があります。その幽霊は長い髪の毛を後ろに振り乱した女性で、両手を前に出し、足がなく、どの方向から見ても、掛け軸を見ている私の目と幽霊の目が合うように描かれています。お寺に「幽霊の掛け軸」というと、どこか不釣り合いな気もしますが、お寺の住職さんがこの掛け軸を次のように説明されていました。

「古来より、幽霊には三つの特徴があるとされています。一つは、後ろに長く伸びた髪の毛で、これはいつも過去のことをくよくよと後悔しながら、あの頃はよかったと過去のことにとらわれている姿を現しています。二つ目は、手を前にちよこんと出している姿で、これは将来のことをいろいろ考えるあまり、不安になってあれこれと迷っている姿を現しています。三つ目は、足がないということ、これは今、この時に、足を地に付けた地道な生き方をしていない姿を現しています。要するに幽霊とは、まぎれもないこの私たちの姿だということです。」

私たちもこの話にあるように、過去の出来事にしがみついたり、まだ見ぬ先のことをあれこれと考えて悩んだりして、口からは「面白くない」「何で私だけが」といった愚痴がこぼれます。愚痴を言うあまり、自分の足元が見えてこない生活を送ってしまう様は、まさに幽霊そのものです。

この「幽霊の掛け軸」はおどろおどろしいものでありながら、私たちの在り方を示してくれています。

どんなに過去を引きずっても、どんなに将来を夢見ても、今というこの時の地道な積み重ねがあつて初めて、私の人生は組み立てられているのですから、今を大切に生きる、そのことを忘れてはなりません。